

学校 番号	23	学校名	更級農業 高等学校
----------	----	-----	-----------

平成29年度学校評議員活用状況報告書

第 2 回学校評議員会 【平成 30年 2月 15日（木）実施】

1 実施概要（協議研究事項を含む）

- ・ 学校長挨拶
- ・ 学校よりの報告（全体・スクールコンプライアンス・学校評価・生徒指導・進路指導・学習指導・生徒会活動・農業教育）
- ・ 意見交換

2 今回の実施に当たって工夫したこと

- ・ 農場からの報告は、長期にわたって地域環境についての調査研究についての取り組みを行っている環境科学コースの授業に絞って行い、好評を得た。
- ・ 「夢に挑戦する学び」について学校長から説明し、本校の将来像について意見をうかがう時間を設けた。

3 今回話題になった事項で特徴的なものとその概要

- ・ コンプライアンスが厳しく問われる時代となり、教員どうしの同僚性を高めることを大事にしてほしい。
- ・ 環境科学コースの取り組みについてはたいへんよい内容なので、農業クラブ以外でも積極的に情報発信を行ってほしい。
- ・ 今後、職業の数も減っていく中、産業教育の他分野との融合した教育内容・学問体系が求められるようになっていく。
- ・ IT化で決まりきったことは誰でもできるようになっていく。ただ勉強ができるのではなく、広い視野を持ち、いろいろな分野にトライし創造していく力が重要で、進歩していく社会に対応できる力をつけさせてほしい。
- ・ 少子化の中で発展的に社会に対応していくために産業教育の在り方も含めた高校教育改革が必要だ。そうした意味で課題研究発表会での英語による発表は教育の成果の現れとして評価したい。わが校を残すことも大事だが、先のことを考えていくべきである。
- ・ 物流でITを利用して個人で起業するなど新しい動きも出てきている。評価をどうするか難しい面もあるが、地域との交流も大切にしつつ、専門性を超えた方向も含めできるだけ多くの選択肢を生徒に向けて用意してほしい。
- ・ 先生がおぜん立てをしすぎて言われるままにやっている面がある。できるだけ生徒にやらせて自主性を育ててほしい。

4 成果と課題（学校評議員会以外の活用状況を含む）

- ・ 限られた時間内であったが、本校及び産業教育の将来像について積極的なご意見を多くいただくことができた。時間内に発言ができなかった内容については学校評価の関係者評価という形で回答をいただき、次年度に生かしていきたい。
- ・ 評議員の方々には学校評議員会の開催時だけでなく、課題研究発表会や収穫祭など何度も学校に足を運び、学校の様子をよく見ていただいた。